

班別活動報告

3班 「DV」・・・これは犯罪です

甲府市は「甲府市配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援計画」を策定しています。男女共同参画社会を実現するための課題の一つである「DV」は重大な人権侵害であり、社会全体で取り組むべき問題です。

私たち3班は、このことについて学習し理解を深め、身近な問題として、広く発信していく事で、他人事ではなく、自分にできることは何かを模索しながらDV防止を啓発することにしました。



《リーダー》
五味 明美

《サブリーダー》
藤原 一三

《メンバー》
今村ヒロ子／小澤 房子／菊嶋 慶彦
神宮寺ヒロミ／高橋 俊徳／田中 克枝
森 みどり

取り組みを始めるにあたって、

- ・それぞれが感じている、また身近に感じた事例等
- ・こんな事も「DV」？

についてそれぞれの意見をまとめるために、「ワークショップ」を2回開催し、多数の意見から暴力の原因・種類・問題点を絞り、その情報を基に今後の取り組みを決めていきました。その結果として「私達に出来る事」を目的に、パネルを作成し啓発の手段とすることとしました。

同時に**学習会**開催の計画を立て、その講演で学んだ事・ワークショップで出た意見をまとめ**パネル作成**を決定しました。

主な班活動の内容

- 2020/ 9 自己紹介・3月までの活動予定や流れの説明
- 2020/10 「甲府市DV防止基本計画」について学習
- 2020/11 「DVって何?」「こんなこともDV?」「事例」について(意見交換)
- 2020/12 DV防止啓発活動について(意見交換)
- 2021/ 1 DVについて意見交換のまとめ
- 2021/2・3 ワークショップ
- 2021/ 4 ワークショップまとめ/学習会「DVについて(基礎的知識と対応)」
- 2021/6～9 パネル内容検討
- 2021/10 活動報告書内容検討
- 2021/11 パネル仕上げ作業
- 2021/12 活動報告書更正・活動報告会について

ワークショップ

- 第1回 R 3.2.12(金)10:30～12:00『DVの知識・情報を共有し、整理する』
- 第2回 R 3.3.12(金)10:30～12:00『情報を基に取り組む内容を決める』
- 第3回 R 3.4.16(金)15:00～15:30『ワークショップまとめ』

①チーム

【女性の健康】更年期・生理・疲労

【人権を無視した行為】これはDVです

DVは重大な人権侵害です

【これは暴力?】健康な夫婦関係とは(話し合い)

感情をコントロールする(ストレス解消)

【家庭のお金に関すること】共有財産と固有財産

【相談窓口の周知】



②チーム

・お金を少ししか与えない

・DVの認識がない

暴力を悪いと思っていない

暴力だと思っていない(無視・お金を渡さないのも暴力です)

・自分をコントロールできない

暴力を悪いと思ってもやめられない

ストレスのはけ口が暴力につながっている

・自分が悪いと思ってしまう

被害者側の認識を確認しよう

受けていませんか?暴力・・・こんなことも暴力です

自分が悪いのではない

・相談するところがない

相談場所の紹介

地域のコミュニティの必要性



学習会

DVについて正しく理解するため、DV被害の実態や女性相談所の役割と被害者支援についてお話しいただきました。



日時：令和3年4月16日(金)13:30～15:00

場所：甲府市役所本庁舎 6階 大会議室

講演：「DVについて(基礎的知識と対応)」

講師：守屋法子さん(山梨県女性相談所所長)

参加委員：23名



アンケート(抜粋)

- ・分かりやすい説明でDVの実態が分かった。特に興味を持ったのは「被害者がなぜ逃げないか」という問題。
- ・加害者心理と被害者心理、多くの実例をあげての話で参考になった。
- ・被害者が安全で健全な生活が送れるよう、相談窓口等の必要な情報を周知・啓発して行く事が大事だと思う。
- ・偏見や先入観を持たないで被害者の立場に立つ姿勢で「傾聴」し、相談機関等の情報提供が出来る様に心掛けていきたい。
- ・女性差別の解決は、先ず賃金格差から是正してほしい。
- ・幼少期からの教育が大切だと感じた。
- ・女性相談所の役割と被害者支援の内容もよくわかり、推進委員としてやる事・出来る事が明確になった。

パネル作成

2回のワークショップと学習会を受けて、3班ではDVについての認識を正しく理解してもらうこと、相談窓口の紹介や地域コミュニティの必要性を周知することが必要ではないかと考え「私達に出来る事」としてパネル作成に取り組みました。



【パネル1】

DVとは配偶者等からの暴力です。

こんな風に思っていないですか？

夫婦喧嘩でしょ？
暴力を振るう人は元々乱暴な人でしょ？
される側にも原因があるんじゃない？
家庭の奥に他人が立ち入れないわ
それは違います！！

DVは犯罪です

どのような理由があってもDVは絶対に許されません。

身体的暴力

なぐる・ける
物を投げつける

性的強要

行為を強要する
避妊に協力しない

心理的攻撃

暴言・無視
脅す

経済的圧迫

生活費を渡さない
仕事を制限する

被害者への影響

あざ・けが
不安・うつ
など

子どもへの影響

おびえ・ストレス
成長への悪影響
など

母子関係への影響

絆が弱まる
など

【パネル2】

被害者

被害者はなぜ逃げないのか？

被害者は相手の行為が「暴力」で自身は「被害者」であるという自覚が持てなくなる

バクハツ期

感情や暴力が爆発する

別れられない理由

- ◆ 子どもがいる(妊娠した)から
- ◆ 経済的不安があったから
- ◆ 世間体が悪いから
- ◆ 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから
- ◆ 相手には自分が必要だと思ったから など

【DV負のループ】

イライラ期

イライラしたり不機嫌になる

ラフラフ期

謝罪したり別人のように優しくなる

加害者

支配

気持ちの押しつけ、思い通りにしたい

正当化

自分を理解できない相手が悪い

- 怒りをぶつける=暴言・暴力
- 許可していない行動・態度を許さない=監視・行動制限
- 究極の支配=殺人

加害者の心理

加害者の心理が強くなる背景

- ✓ スマホやSNS→返信がないと不安や怒り
- ✓ 家庭内のごと→周囲に気付かれない
- ✓ 勘違いの恋愛観→支配・束縛は愛情

【パネル3】

DVは絶対×ダメ許されません！！

もし身近に悩んでいる人がいたら

気になることがあったら

相談窓口があります

名称	電話番号	場所・相談時間等
甲府市女性総合相談室	055-223-1255	【電話相談】【面接相談】(祝祭日を除く) 月～木 9:00～16:00 金 9:00～19:00
女性相談所	055-254-8635	【電話相談】 平日 9:00～20:00 【面接相談】 平日 9:00～17:00
男女共同参画推進センターびゅう総合	055-237-7830	【電話相談】 9:00～17:00 【面接相談】 9:00～16:00 (第2・第4月曜日を除く)
山梨県警察総合相談室	055-223-9110	24時間受付 (土日、祝日、夜間は警察署の(日)番通報窓口が対応)

このマークの意味を知っていますか？

女性に対する暴力の根絶のためのシンボルマーク

DVの問題に対する社会における認識をさらに深めてもらうためのシンボルマークで、女性が腕をクロスさせた姿をモチーフにし、女性に対する暴力を断固として拒絶する強い意志を表しています。

パープルリボン

女性への暴力の根絶を訴えるアウェアネスリボン。パープルリボン運動は1994年にアメリカ合衆国ニューハンプシャー州のペルリンで始まり、日本ではNPO法人全国女性シエーターネットワークが中心となり、活動を展開しています。

2年間の活動を終えて

今村ヒロ子

長期化するコロナ禍の中で延期、中止せざるを得ない状況での活動は少し残念に思われましたが、そんな中での班活動は、少人数なので意見交換しやすく、考えや思いを共有でき、多くの事を学習し、気づかせて頂きました。これからはこの経験を礎にして、地域の人達の手助けになるよう活かしていきたいと思えます。

小澤 房子

DVは私自身、些細な事ことで反省すべきところがあったことに気づかされたことはとても良い機会だったと思っております。コロナ禍で制限がある中、委員同志の繋がりが薄く寂しい感じがいたしましたが、今年度は日本女性会議で推進委員として参加出来ましたことは大きな学びをいただきました。皆様に感謝しております。ありがとうございました。

菊嶋 慶彦

3班は五味さんを中心に活動を行い、みんなで意見を出し合い、解りやすい「DV防止パネル」を完成させ、展示する事ができ、満足感を共有することができました。これからの男女共同参画活動は、若い人たちも含め多くの人に参加できる方法を考え、土日や夜間の会議を考えなければ、ならない時期に来ていると思えます。

五味 明美

2年間、推進委員として活動の制限がありましたが、DVという根深く見えにくい難しい問題を班の皆さんと学習、共有し、改めてDVは人権の問題、人として生きる上での基本的問題だと確信しました。推進委員として役割を認識し「気づき」声を上げていくことの大切さを学びました。

神宮寺ヒロミ

DVは「そんなに辛いなら別れればいいじゃん」と簡単に思われがちですが、子どもの事や世間体の悪さ、自立への不安そして繰り返されたDVによる逃げ出すことへの恐怖心や自己否定感等で逃げるに逃げられない深刻な事情があると知りました。そしてDVは子どもにも多くの影響を与え、大人に成長した時にパートナーへのDV行為や可愛いはずの我が子への虐待にも繋がると思います。DVは人格が壊れる絶対にあってはいけない犯罪だと思えました。

高橋 俊徳

新型コロナウイルス感染拡大の中、第7期「男女共同参画推進委員会」の総会が書面にて決議されスタートしましたが、定例会が幾度となく中止となり委員の皆さんの顔と名前が一致しないまま班編成が行われ、3班では『「DV」それは犯罪です。』をテーマに意見交換・ワークショップ・研修会を重ね、何とか班のまとめができた感があります。コロナ禍の中、家庭内ではDV被害が多くなっていると聞きます。今後は、地域で相談機関の情報提供等、微力ながら被害減少するよう努めていきたいと思えます。2年間ありがとうございました。

田中 克枝

男女参画の行事参加させていただき、価値観がとても変わったことを強く感じました。最初は堅苦しく思い、ただ出席するだけでいい本当に形だけでした。しかし何回か話し合いに触れていく中で、自分を大切にしていくことの重要性を知り、少しでも差別のない世の中に、私ができることはさせていただきたいととても強く思いました。

藤原 一三

委嘱状を受領して以来、推進委員の役割とは何だろうと自問する日が続き、何回か活動会や講演会に参加するうちにその疑問も、他の推進委員の男女平等に対する活発な議論の熱気のうちに自然に氷解していったように思えます。しかし社会や地域や家庭内における男女の役割、格差、不条理は、一人の力では限界は否めず、行政や関係機関等の連携、協力が不可欠だと感じました。日頃思っていることを直接議論しあい、一つの目標設定をし、それに向かって、他の多くの人々に働きかけ、自分に出来ることを愚直に実践することだと認識するに至りました。

森 みどり

「日本女性会議 2021 in 甲府」にリモート参加し37年の自治体と市民団体の協力で得られた活動の成果に感動しました。DVという難解な内容に取り組み、DVが生み出すプロセスや被害者・加害者の心理等、多くを学びました。男女共同参画社会実現のため、意識を持ち続けることから行いたいと思っております。